



移住者仲間で森林活用に挑戦

自分は以前、関東地方で美容師をしていましたが、地域おこし協力隊の制度に応募して、数年前にニセコ町に移住してきました。妻が木製品の工芸家で、当初は地域の森林資源を活用するというテーマを温めていました。しかし実際に来てみると、ニセコ町には森林組合がなく、工芸の素材を得るにも、よその自治体の林業組合や業者に頼むしかない状況で、ちょっとがっかりしていました。

そんな時に「自伐型林業」という言葉を知り、交付金の支援を受けて、勉強しながら自分たちでそれをやってみようと考えました。

とはいえ自分はもともと美容師ですし、活動グループの他の仲間も、広告デザイナーや看護師、若いUターン農家といった経歴の人たちばかりです。そこでまず自伐型林業が実践されている各地の現場を見せてもらいに行き、本も読んで勉強しました。

訪ねていったひとつが「シマントモリモリ団」(高知県四万十市)でした。そこで話をうかがった若い女性団員が「機械を使えば女性も男性と同じレベルの仕事ができます」とアドバイスしてくれました。不安を感じていた自分が恥ずかしくなって、「じゃあやるか!」という気持ちになりました。

北海道自伐型林業推進協議会の技術研修「自伐塾」を受講したのも貴重な経験になりました。橋本光治氏(徳島県那賀郡)に丸太組工法を、岡橋清隆氏(奈良県橿原市)に「壊れない作業道(奈良型作業道)」の技術を学びました。

都会出身の未経験者にも可能性

活動しているのは、シラカバ、クルミ、カエデなどが生える約4haの天然林で、まわりを畑に囲まれた、いわゆる孤立林です。チェーンソーでの伐採方法を学ぶところから始め、いよいよ作業道をつける工事に取りかかりました。

美容師の自分が、森の中で小型のバックホーを操って道路工事をすることになるなんて想像もしていませんでしたが、なかなか奥深くて、おもしろいんですね。たとえば森の表土には植物の根や種子が含まれ、そこを道として利用する場合はしっかり取り除いておく必要があるのですが、木の根は捨てず、路肩に置いて緑化を促す、というのもひとつの技術です。他にも

治水の知識が必要だったり……。学んできたそれらのことを、身をもってやってみたくてです。

完成した作業道は幅3m、総延長1250mです。昨年台風が来た翌朝、心配しながら見に行きましたが、まったく壊れておらず、とてもうれしかったです。入り口付近のぬかるみの改修工事がまだ終わっていないので、除伐材の搬出は来年以降に行なう計画です。

今年は樹種に詳しい地元の講師を招いて、この作業道を歩きながら観察会を開き、好評でした。

今後はトドマツの精油、シラカバ樹皮のアクセサリーやアート作品などを商品化して、森林資源の活用につなげていきたいと考えています。とはいえ、むやみに材料を採取することはせず、たとえばシラカバ樹皮を材料にする場合は、あらかじめ「除伐する」と決めた木だけから皮を剥いで必要量を集めています。アート作品については、地元スキー場のホテルが主催するアートフェスティバルに一部の作品を出展しました。

いろいろたいへんなことも多いのですが、こうした森林活動はすごくおもしろいと感じています。自伐型林業は参入障壁が低く、初期コストもそれほどかかりません。安全だけはしっかり確保する必要がありますが、アウトドアやエコロジーに関心が高まっているなか、都市部の未経験の人でも気軽に森に入って活動するというのは、アリなんじゃないかなと思います。



報告者

澤田 健人さん

